

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊厳」を念頭に意識しながら対応しているが、時折、個人にとっての尊厳、尊重とは何処迄を尊重し対応して行くのか？を話し合いながら実践している。	職員は定期的に理念について学ぶことで、日常的に共有している。また、介護姿勢、理念の達成度について会議の場で検証、協議している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は講習会を催し、地域に呼びかけ取り組んでいたが、最近は制限があることから、開催は出来ないが、お散歩をし、挨拶を交わしながらのちょっとした交流となっている。	通例では、積極的に地域行事に参加したり、ホームの避難訓練などに協力をお願いする等、協力関係作りに注力している。現在は、散歩の際に挨拶を交わす等で地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、キャラバンメイトを通しての認知症の方への理解や様子、対応について、説明をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや現状報告、災害時の訓練内容等、説明し、ご意見をいただきながら、日頃のサービス内容に活かしている。	通例では、家族、地域代表、行政が参加し、定例で開催している。運営状況や現状の問題点が論議されており、委員から意見を聞き取り、運営に活かしている。現在は相互の自粛により、書面での開催となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告書の記入の仕方や、提出書類時に、日頃のサービス内容について伝え、教えていただきながら取り組んでいる。	市窓口からは、定例の運営状況報告の他、メール・電話での相談や実地指導の場で、随時助言・アドバイスを受けており、運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの理念を意識しながら取り組んできたが、入居者様の認知症状と行動が広範囲になり、見守りが行き届かない事も踏まえて、玄関の施錠について説明をし、現状について伝えた。	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を基に定例で開催している。委員会では、現状の検証を行い、職員間で内容について共有している。不適切なケアと思われる事は、その場でお互いが注意し合えるよう、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の様子、言動から私達の対応について、「スピーチロック等」にならぬよう、意識しながら見つめ直し、日頃の対応策考慮に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、入居者様のご家族様がご高齢という事もあり、成年後見制度について、講師の方を招き講習会を実施していたが、最近は資料を見ながらの勉強会を開催して行く予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、グループホームでの生活が出来なくなってしまった場合の次の生活の拠点先について、説明を行い又、解約に至る迄に、常時、ご家族様へ状況についての説明を行い、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの連絡時、話の流れから、ご意見や要望を伺い、スタッフ間で話し合いながら、サービス支援に活かせる様、反映出来る様、取り組んでいる。	本人・家族が意見・要望を話しやすい関係作りを心掛けている。感染防止に留意・工夫しながら、面会も弾力的に再開しており、コロナ禍であっても自由に話せる環境作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案等について意見を伺う機会を設けて下さり、話し合いながらサービス支援に反映される様、努めている。	申し送りや職員会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、皆で検討し、ケア手法や業務の改善に活かしている。管理者は、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課等で、職員の勤務に対する意向や取り組みについて把握し、各自が向上心を持って働ける職場環境が実践される様、取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列法人で勉強会開催の呼びかけや、現在はZOOMで参加出来る体制を確保し、学習の機会の場を提供してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記同様、ZOOMでの研修会や交流会へ参加出来る様、配慮してくださっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今迄のご本人様の生活様式や、習慣等を伺い、出来る限り継続して行ける様、考慮し、配慮しながら要望に添えられる様、取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、ご家族様にもご本人様の今迄の生活様式について伺いながら、ご本人様にとって相応しい生活の在り方について、一緒に考慮し、出来る限り要望に添えられる様、取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様子を伺った上で、必要性のあるサービスについて、ご本人様、ご家族様とお話し、他のサービス利用の活用をしている。例→手摺りや歩行器のレンタル等。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者様の出来る事を把握し、一緒に家事や掃除等を行い、共に生活をしている感覚で接しているが、慣れ親しんだ感が無意識に出ている所もあり、各入居者様への尊厳を意識し、気を付けながら接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話等で、随時、ご本人様のご様子について話、ご本人様にとって、相応しい日常生活が送れるよう、共に話し合いながら支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄の築き上げてきたご縁を続けて行ける様、月に一度のお食事会への送迎や馴染の美容院への送迎を行ってきた。結果、いくつになっても楽しく、話せているお姿が輝かしく、見習いたいと思えた。今後も出来る限りのご要望に添えられる様、取り組んで行く。	コロナ禍において、現在は時間を制限しての面会したり、電話連絡の頻度を上げることで、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気に合う方同士の把握をし、席を近くにしたり、一緒に活動がしやすい様、状況作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在も契約が終了されたご家族様とのご縁を大切にしながら、馴染の関係性を続けて行ける様、取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話から、意向や要望について伺い、出来る限り思い思いの暮らしが出来る様、又、意向が把握しづらい方には、行動面等で意向を把握している。	職員は日々の生活に寄り添いながら、思いや意向を汲み取り、情報を共有して、個人の尊厳を念頭に、本人本位な暮らしとなるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や、生活習慣から、ご本人様、ご家族様に今迄の経過について、伺い、参考にしながら現状のサービス提供に活かしている。例→縫い物を仕事にされていた方にはフキン縫い等を促す等。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活ベースを把握し、無理なく過ごせられる様、対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の様子から、出来る事を把握し、サービス内容に適しているか？ご本人様、ご家族様と話し合い、現状に見合ったサービス計画を作成している。	職員相互でモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や医療機関の意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また、随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング時や記録記入時に、気づいた点や取り組みについて、話し合い、情報を共有しながら実践し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご様子に適した対応がなされる様、常時、ご本人様、スタッフ間で話あい、現状に見合ったサービス支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所のスーパーへ、散歩がてら、一緒に買い物へ行き、商品を選んだりしながら、ご本人様の気力、意欲、観点が生かされる様、取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前より、通院されていた病院へ月に一度、通院同行し、相談をしながら適切な対応がなされる様、努めている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、協力医療機関への受診結果については、お便りや電話で家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に在宅診療の看護師に相談をし、指示をいただきながら、適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、常時、病棟、医療相談課との情報交換を行い、入院中の経過から、退院後、継続してケアが出来る様、努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重症化した場合の事業所での出来る事から、翌々の生活様式の在り方について、ご家族様へ説明を行い、その後、関係者等への情報共有をし、取り組んでいる。	契約時に、重度化や看取り対応に関する事業所指針を説明して、同意を得ている。状態の変化時には、改めて話し合いの場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、感染対策について、随時話し合い、即座の対応がなされる様、定期的に会議の中で、話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、避難誘導の仕方について、運営推進会議の中でもご意見を求め、参考にさせていただきながら、取り組んでいる。	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域町内会との災害時の協力体制があり、相互の役割確認を行っている。	現在、法人として取り組んでいるBCP(事業継続計画)作成に併せ、家族、関係者への避難場所の周知等、進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様との距離感を意識しながらの言葉掛けや、話し方をしている。	不適切な言動や声掛けがあれば都度、職員間で注意喚起し、会議の場で検証している。利用者の尊厳を損ねるような対応にならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話からの内容で、要望や、自己で決定出来る様、さりげなく伺いながら、本質を発揮出来る様、取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によっては、職員側の意向都合が優先になる時もあるが、その際、入居者様へご説明をしている。また、自己の生活ペースを把握し、無理なく、和やかに過ごしていただける様、配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色や、形を把握し、ご本人様らしい、装いや、おしゃれがなされる様、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理前、もやしのヒゲ取りや、茹で卵の殻むきや野菜刻みを一緒にやり、食後は、一緒にお膳拭き、食器洗いを行い、活力になるよう、配慮しながら取り組んでいる。	現在はコロナ感染防止対策として、食事準備の手伝いを最小限で行い、支援している。通例では、職員と同席同食を原則として、日常的に楽しみある食事の場としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の摂取される量や水分量を把握し、おかずを盛り付けたり、水分補給の促しをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度の訪問歯科の先生からの指示をいただいて、口腔内の掃除を行ったり、ご本人様にも出来る所迄清掃を行っていただき、手伝いながら行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身の排泄パターンを基に、出来る所までは行っていただき、失禁が多くなってきた等を見極めながら、拭きとりが不十分な所は相手に不快にならないよう、清拭させていたでている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、チェック表を用いながら、排泄の誘導も時間と仕草を読み取って行っている。運動も取り入れて、自然な排泄になるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しを多くしたり、リハビリ体操等と一緒に無理なく促し、蠕動運動がなされる様、取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日より、こちら側の都合で、入浴日が変更になったり等があるが、常時、入浴日について、説明をしている。	週2回の入浴を支援している。拒否がある人には時間・日程を変更し、本人の状態や希望に応じて、柔軟な対応に努めている。同性介助の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の生活ペースを尊重しながら、自由に過ごして頂くも時折、お茶参加の声掛けをしながら、生活にメリハリが付けれる様、様子をみながら取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や用法について、時折見直し、医療機関に相談をしながら、症状等の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の特技や出来る事を見出し、日常生活に活かせる様、又、興味の持っていただけの創作活動を促し、気分転換と活力になるよう、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はご本人様のご希望に寄り添い、お出掛けをしていたが、現在は状況をみながら、ご希望の場所ではないが、ソフトクリームを食べに行ったり、ご近所散歩へ行っている。	通例では、日用品の買い物や季節の行事・ドライブを楽しんでいる。現在は感染防止に留意しながら、事業所敷地内での外気浴、筋力低下防止の運動の機会作りに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前、自宅に居た時となるべく近い所持金になるよう、ご家族様とご相談をしながら取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週に2回、ご家族様より、ホームへ電話があり、ご本人様とお話をさせていただき、互いの絆が継続される様、取り組んでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1F、ラウンジには観葉植物を置き、入居者様も水やりが出来る様、廊下はレクリエーションの写真や絵等を飾り、見たり、ふれあいが持てる空間作りを心がけている。	リビングをはじめ、共用部は温・湿度が適切に保たれている。職員と利用者が共同で作った季節感ある作品が装飾され、明るく、清潔で安全な環境作りに努めた場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席で、仲の良い人同士でお話出来る様、隣の席にしたり、お出掛けも仲の良い人同士で行き、気持ちから楽しめる様、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染の物や、ご本人様の興味のある物や、好きなタレントさんのポスター等を飾り、ご本人様が居心地良く過ごせられるよう、取り組んでいる。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、安心して過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内や建物内部の安全性を考慮し、ご本人様、ご家族様と相談をしながら、取り組んでいる。例→居室内に手摺りを設置したり等。		